

2008年9月2日

会員・関係者 各位

特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会
連絡先 TEL・FAX 087-843-9877 (川井)
ホームページ http://www7a.biglobe.ne.jp/~khj_olive/

猛暑が和らいで、涼しさが出てきたり、雨に恵まれたり、ちょっと過ごしやすくなりました。
下記の通り9月の月例会を開催いたしますので、ご出席くださいますようお願いいたします。

第75回月例会ご案内

- 1) 日 時 9月21日(日)(注)
13:00~13:30 受付
13:30~13:40 理事長から報告・連絡
13:45~15:00 「さぬき若者サポートステーションについて」
お話と質疑応答 同所長 ^{すみ} 鷲見 典彦 氏
(息子さん娘さんと是非一緒に。参加をお待ちしております。
さぬきサポステについては、後述の記事参照)
15:10~15:40 「私の活動(徳島・香川)から」
フリースクール、自助グループなどについてのお話
体験者(KHJ徳島つばめの会)杉本 英子さん
15:40~16:40 グループ別話し合い、情報交換
- 2) 場 所 香川県社会福祉総合センター 6階 研修室
TEL 087-835-3334 県庁の斜め向い
- 3) 参加費 1家族 1,000円

(注) いつもは第4日曜ですが、今月は、会場の都合で第3日曜になっています。

年度会費納入のお願い

既に年度会費(3,000円)は、多くの方に納めていただいておりますが、未だ納入されておられない方は、例会参加時でも、郵便振替による払い込みでも結構ですので、よろしくお願ひします。

郵便振替の場合

口座記号番号 01610-1-130022

加入者名 特定非営利活動法人 KHJ香川県オリーブの会

【今後の月例会】

10月26日(日)
11月23日(日・祝)
12月21日(日)

} 香川県社会福祉総合センター 13:30~16:30

【ポレポレ農園】

夏野菜もそろそろ最終になりました。先日は農地を借りている稲刈りの手伝いをしたそうです。

ポレポレ農園を見学したい方、野菜の購入や作業等、わずかな時間でもお手伝いを頂ける方(ボランティア)は松田先生(携帯電話 090-8695-0904)までご連絡下さい。

【若者の集い】

8月16日(土)若者3名、小豆島から1名、徳島の杉本さん、当番・役員2名、親御さん2名参加。

トランプゲームで、時の経つのも忘れて楽しく過ごしました。

9月の集いは、9月21日(日)月例会に参加して、さぬき若者サポステについてと杉本さんのお話を聞いたあと、場所を変えて若者だけのおしゃべりタイムを予定しています。

【居場所活動予定】

9月6日(土) 運営委員会 (13:30~)
9月13日(土) 松田先生 個人カウンセリング (9:00~15:00)
9月21日(日) 若者の集い 月例会参加後、おしゃべりタイム

【お知らせ】

四国ブロック会議 10月12日(日)(場所 高知やいろ鳥の会居場所(いの町))

- ・各県の状況と私たちの要望
- ・四国ブロックとしての署名活動(岡山きびの会では署名活動開始)

勝ち負けを超えた希望社会のあり方を考える 10月12日(日)(場所 京都大谷婦人会館)

- ・シンポジスト(予定) 芹沢 俊介・若者他 ISIS ネットワーク情報誌 Global Ships より

第4回全代研広島大会(主催:KHJ 広島県もみじの会 共催:全国引きこもりKHJ親の会)

内容の素案です。今後検討のうえ修正・決定されます。一部のみの参加も可です。

11月29日(土)午後 基調講演;厚労省の担当者

シンポジウム

夜 全国懇親交流会(ホテルで)

30日(日)午前 分科会: 1. 制度・福祉面(精神障害と辺縁領域)。2. 医療面。

3. 施策面(セーフティーネット)。4. 社会参加面。5. 若者の部屋(若者が主催)。

参加ご希望の方は、川井まで連絡をお願いします。詳細は後日お知らせいたします。

【前回の月例会より】

理事長からの報告・連絡

1 各県にひきこもり地域支援センターができる予定

8月24日付の四国新聞によると、厚生労働省は、引きこもりの人や家族からの相談専門窓口となる「ひきこもり地域支援センター」(仮称)を来年度設置する方針を決めた。来年度予算の概算要求に5億円を盛り込む。センターは、既存の福祉関連施設などの中に置く想定で、社会福祉士や精神保健福祉士などが相談を受ける。電話での相談にも乗り、本人の状態や意向に応じて外出できるように支援したり、社会参加の機会や福祉サービスなどを紹介する。引きこもる期間が長期化するほど、社会復帰が難しくなるため、厚労省は支援に乗り出すのが急務と判断した。

2 オリーブの会の要望書を県知事宛に提出

8月22日、理事長・副理事長を含め役員3名が、都築県議の再度のご配慮で、副知事と面談。要望書(8月例会時に北配布済)を手渡し、県から文書で回答を頂くこととなりました。8月例会欠席者には別紙要望書を同封しています。

3 さぬき若者サポートステーションを見学

8月11日、役員他5名で、丸亀のサポステを訪問。鷲見所長に所内を案内してもらった後説明を聞きました。

JR丸亀駅前のビルの1階。相談を受ける一角や利用者同士がおしゃべりできるカフェスペースがある。チームを組んだ利用者達が企画打ち合わせのために利用できる会議室もある。相談を受け(親子も可)個別にカウンセリングを実施し、講習や職場体験(県内の企業40社と提携)などのプログラムを経て、最終的に就職や進学へとつなぐ。

キャリアコンサルタント3人が担当。サポステは、厚生労働省の委託事業で、県内では高松にある「かがわ若者サポートステーション」(穴吹カレッジサービスが受託)に次いで、この6月に開所。NPO法人さぬき自立支援ネットワークが受託。利用料無料。

細かい支援内容は、各サポステに任されているので、「かがわサポステ」とは違った味を出すと言う。

月~土の午前10時~午後6時。問い合わせは0877-58-1080。

9月の例会は鷲見所長のお話なので、詳しく知りたい方、また子どもさんと、あと一步の助けがあれば何か動けそうと思いつつも悩んでいる方など、是非参加してみてください。

4 精神障害者に関わる「ご家族の学習会(交流会)」に参加して

日時:8月12日(火)13:30~15:00

場所:香川県大川合同庁舎 2階ダイケア室(香川県東讃保健福祉事務所 保健対策課)

会員Hさんの乗用車に私とIさんが便乗し、時間的ゆとりを持って出発しました。

大川合同庁舎の玄関に入ると、丁度担当の樫原様(精神保健福祉相談員)が1階に下りてこられ、二階ダイケア室まで案内して頂きました。既に3名の方が席についておられました。

その後ご家族の方が来られ、最終的には11名のご家族、3名の保健師、樫原様、事務の女性、それ

と私たち3名の計19名になりました。

榎原様から私たちの簡単な紹介があり、会の進行について説明されました。

私は配布していた資料のなかの、当会作成のパンフレットでオリーブの会の概要を説明、また ひきこもりが状態ゆえに三障害でもない、病気でもない狭間で、現在何処からも支援が受けられていない実情を、少しでも解かって頂けたらとの思いで、機関紙旅立ち44号掲載の要望書を読み上げました。

また、直近のアンケートからオリーブの会の会員と当事者の高齢化による悩みなど説明、そして一口でひきこもりと言っても百人百様、それぞれ原因も状態も違うこと、ひきこもりの子どもは、なかなか病院へ行けないので医師の見立てができ難いこと、なかには長期に涉ってひきこもっていると神経症などを発症している場合もあるので医師の見立てが重要になってくることなどお話ししました。

「ひきこもりから社会復帰へ向けて」Hさん、Iさん、私の夫々が、我が子の自立へ向けての体験を約15分位ずつお話ししました。(以下 質問の一部)

Q：何時ごろから、うつ状態になったのか？

H：何時ごろか分からない。生まれたときからかも分からない、と言っている。

Q：息子さんのポレポレ農園での活動を通して役立ったことは？

I：最初は事務所の中にも入れなかったのが、仲間とコミュニケーションが取れるようになってくると、だんだんと中にも入れるようになった。農園ではいろんな世代の人と作業を通してコミュニケーションの練習ができ友達ができる。社会に出てから必要なことだし役に立つ。

Q：ひきこもりを治す薬はないのか？

H：ひきこもりの原因はいろいろあって、うつ病が原因のひきこもりには、うつ病の薬が効く場合もある。KHJでは社会不安障害の治療で、ひきこもりを改善していこうという取り組みがされている。

今回の参加者のなかに、オリーブの会に一度参加された方がおり、ひきこもりの子どもさんの対応に悩み焦っておられる現状を伺いました。そのなかで第三者が訪問して下さっているとお聞きし、私たちも少し安心しました。

ひきこもりからの回復が決して簡単なものではないことを、またこちらの家族会の方と抱えている根っこの部分は共通点があることなど、少しでもご理解頂けたものと願いつつ、この機会を与えて頂いたことに感謝しながらHさんの乗用車に乗り込みました。(川井)

5 オリーブの会 会員数(8/24現在) 正会員57名(年会費納入済の方)、賛助会員7名。

副理事長からの報告

1 講習会「伝えるコツを身につけよう」に参加

高松市ボランティア・市民活動センターが協力して開かれたNPO対象の標記講習会に出席。オリーブの会が以前作成した 会紹介のリーフレットについてもいろいろアドバイスを受けました。

市ボランティアセンター(高松市田町)は、ボランティア・市民活動についての情報をた

くさん発信しているので参考になる。ホームページもありメールマガジン（無料）も発行している。

2 統合失調症家族教室に参加

高松市保健センター主催の標記家族教室（年間で10回）に出席しています。自分たち家族の状態と照らし合わせ、とても参考になっています。

松田先生のグループカウンセリング（一部、概略）

参加者全員が1つのグループになって。 A～K = 相談者、 = 松田先生

- A どうやって仕事に就かせようか考えている。障害者の方の作業所へ来週から行く予定。ポレポレ農園によく行った。親に迷惑をかけないよう、お金のことも気にかけている。素直である。良くなった。そのままの自分を出せるようになっていく。友達関係も良くなった。
- B 先日 父のためにゲームを買ってきて、一緒にしようと待っていた。父とのコミュニケーションが少し増えた。息子の方から仕事でも「これどうする？」と聞いてくる。もう終りに近づいた時期。家族から突き放すのが大切な時に来ている。当人が自分で動けるように周りは配慮する。当人に気を遣いすぎないように。動き出せそうな時に無理に動かすと、また元に戻る。依存が戻る。当人は自信ができたなら自分から出ていく。このケースは、子どもがどういう風に変わっていくかを示す典型的な例。ひきこもってから3年になる。早く対応したのが良かった。若い子は回復も早い。
- C 子を責める父に反発して、以前は暴力暴言が大変だった。耐えかねて父母が家を出たが、息子に居所を突き止められた。松田先生のカウンセリングを受けて、ゆっくりだが ましになった。母と息子の時間を取るため、父がなるべく家を空けるようにした。息子は「いよいよになったらホームレスになる」などと言っている。年がいつているので就職も難しい。まだ「父親のことは絶対許さない」と言っている。主人が「子どもは以前よりは良くなった」と私を励まし慰めてくれる。
45歳になって今から自立・就職するというのは大変難しい。大きな課題。
何かしたい、立ち上がりたいという気持ちが表れている。そうでなければ、当人は何もしないはず。
- D 今回初めてこの例会に出席。暴力はなくなった。ベッドから出れない。音が怖い。耳栓をする。話をするのは母とだけ。週1回通院している。以前は本人を責めたが、今は止めている。
子どもにとっては、親が「してくれるか」、「してくれないか」だ。
親に知識があるかないかは関係ない。まだ早いのに無理やり動き出したのが良くなかった。子どもは、初め正常に動いていて 動けなくなり 暴力などが出る どん底でひきこもったまま動かない 母とかかわり 父とかかわり 他人とかかわり 回復する。急いではいけない。疲れた時は休ませたらよい。完全に休ませること。エネルギーを溜めさせること。しっかり甘えさせること。
- E 息子。40歳すぎ。家の畑の手伝いをしている。松田先生が家へ2～3回来てくれている。

訪問サポートをしている。香川3件、愛媛1件、徳島1件、広島、岡山も。

先ほどの「涼しくなったら行く」というのは、「今はもう少し待ってくれ」ということであって「9月になら行くと行く」ということではない。

40歳過ぎたらどンドン声をかけて外へ出させるようにする。遠慮してはダメ。誘いかけは常に必要。時間がかかる。根競べ。

- F 9年間1歩も家から出ない。8時間ふろに入る。父親のことを「おっさん」という。母親には「あれ食べたい。これ食べたい。まずい」と食べ物の要求をする。

安心して甘えごとを言える状態にあると思う。言えば聞いてくれると思っているから、甘えて親を試している状況。子どもが苦しんでいる状況を母が聞いてあげる余裕がある。試され、試され続ける。

- G ほめてやることは良いことか？

ほめるのは良い。わざとらしいほめ言葉はダメ。本気でほめること。ばれるようなほめ事はダメ。しかるの良くない。自分で考える力をつけさせること。

- H 本人は6月に職安、派遣にも行った。一度断られた。「9月になると就職活動する」と言う。催促すると「殺すぞ」と暴言。

エネルギーのある子は「殺すぞ」と暴言や暴力をふるう。あわてず余裕を持って受けてあげると子どもは安心する。暴言・暴力は親を試している。親はドンと構えて対応を。急がず、ゆっくり待つ。

しごとプラザ高松を訪ねてみてもよい。職安や派遣より良いと思う。情報提供をしてあげることが必要。

- I 19歳。これから大学。同世代に会うのが苦手。ゲームに夢中。年配の人とは話せる。ゲームに夢中になる時期がある。ゲーム以外に自分の居場所がないのだ。好きでしているわけではない。ずっとし続けることもない。一度ポレポレ農園を訪ねてほしい。

- J 25歳息子。墓参りに行けなかった。親類の葬式に出られないようなことになったらと心配である。

親が先々心配している。今すべきことは何か、今言うべきことは何か。葬式についてはその時が来たら考えたらよいこと。私は農園の子供たちを徹底的に信じている。信じること、待つことは大事である。

- K 29歳息子。大学2年で挫折。子ども返りしていると気づいた。小さい時から29歳の今も「お母さんは僕の話聞いてないやろ」とよく言う。ごみ出し、炊事、洗濯など家事はしてくれる。潔癖症。洗った食器は必ず点検させられる。父は子育てにあまりかかわってこなかった。反省している。退職して子どもの職探しをした方がよいかとも思う。今皆さんの話を聞いて、あせらず待とうという気持ちになった。

大事な点は「母は話を聞いてない」ということ。話をしっかり聞いてあげる。本気で聞いてあげる。本人はこちらを試し続ける。聞いている中で「こういうことだね」と確認を入れるのもよい。聞き上手は、何も言わないこと。結論は出さない。だめ・指示・命令は絶対よくない。

もう1点は、子どもの職探し。まだ先でよい。子どもの状態、子供の望んでいることに合った対応をせずに ずれた対応をしても子どもは怒るだけ。

以 上